

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名： 地域政党きずな庄原議員団

報告者： 林 高正

㊦

実施場所：山形市コミュニティサイクル及び公共交通の利用について	実施日：令和5年2月2日
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <p>山形市内に配置されている85台の電動アシスト自転車を専用アプリ「ecobike」を使って、14か所あるサイクルポートで、「借りる」と「返却する」が簡単にでき、市民の日常使いや来訪者の観光利用などに活用されている。そして、山形市公共交通計画によりMaaSを導入し、便利で楽しい公共交通を構築していく途上にある取り組みを視察して本市の公共交通政策に活かすことを目的とする。</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>全ては山形市企画調整課交通政策室が中心となって5か年の公共交通計画を立案し行動しているのですが、内閣府から出向して副市長をされている井上貴至氏が直轄でアドバイスしており、コミュニティサイクルもそうですが、この3月には95台増の180台となり、ポート数も26か所増え40となります。MaaSに関しても国、県と連携した取組をしており、やまがたMaaS「らくのる」が2月1日よりスタートしており、スマホに「らくのる」アプリの運用も開始されています。</p> <p>つまり、コミュニティサイクルや公共交通を利用すればするほど楽しむことができる山形市を目指して研究開発されています。そして、公共交通にDXを積極的に導入して、観光や福祉分野などとも連携を目指しています。</p>	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <p>まず、庄原市の電動アシスト自転車が活用される様にするために、山形市が導入しているアプリ（運営はアパマングループのecobike株式会社）を導入することを提言します。そして、自転車の維持・管理部門を自動車販売会社やガソリンスタンド等の専門業者と契約し、自転車を置いている拠点（ポート）の見直しも進め、利便性の向上を図るべし。</p> <p>本市の場合、現在、DMOが自転車の維持管理を担っているため、早急に提言内容を彼らに伝え、行動して貰います。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名： 地域政党きずな庄原議員団

報告者：林 高正

㊦

実施場所：青森県北津軽郡板柳町「りんご栽培の産業化とブランディングについて」	実施日：令和5年2月3日
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <p>本市には、りんご栽培農家が30軒程度ありますが、栽培規模は小さく家族経営が殆どで、市場に出荷することはなく、その殆どは、贈答用と観光用となっています。課題は、生産者の高齢化問題、後継者問題が挙げられますが、りんご産地として生き残るには、栽培面積を増やす必要があります。つまり、新規就農者の確保が必要となります。</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>板柳町にある「株式会社 津軽りんご市場」に着いての第一声は、「でかいな！」というものでした。日本で唯一つのりんごだけの市場ということは知ってはいましたが、敷地面積が53,320.59㎡ですよ。私たちが説明を受けた第1卸売場は、6,183.32㎡でしたが、野球コートが2面はとれる感じでした。</p> <p>これだけの市場があるということは、それだけのりんごの生産量があるということです。想像できない数字ですが、りんごの集散目標300万箱、りんご出荷登録者約1万人だそうです。桁が違い過ぎますが、道路沿線に1軒のりんご直売所が無かったことを考えると、りんごの一大産地を目指すなら、個人プレーではなく全体を一塊として行動しないとけないということが理解できました。</p> <p>次に板柳町直営の「ふるさとセンター」で町長、議長、役場担当職員から町の取り組みについて説明を受けたのですが、「ふるさとセンター」はりんごワンダーランドともいえる、板柳のりんごのブランディングの総本山となっていました。「Ringo Work」という統一ロゴがあり、りんごジュースなどの製品には全てこのロゴがつけられていました。海外展開もされており、高品質のりんごとして評価されているそうです。後で気づいたのですが、りんご取引先の人たちがこの「ふるさとセンター」に来られたなら、板柳のりんごは本物と理解されること間違いのないなと感じました。</p> <p>質疑の中で、板柳町でも後継者問題があるそうですが、新規就農者の養成を町が独自に行っており、2年間でりんご農家に仕立てているそうです。1期（2年）で大体10～12軒だそうです。離農する農家数よりは多いそうです。夫婦二人1haで粗収入1000万円程度という感じを受けました。板柳町はりんご農家と共にということを実践されていました。</p>	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <p>参考とすべき事項にも書きましたが、新規就農養成システムを本市としても取り入れたらと思います。何もない所からりんご栽培はハードルが高いと思いますが、2年間かけて栽培のノウハウを取得でき、その後も不明なことは「ふるさとセンター」に来ればアドバイスが貰える訳ですから、安心です。恐らく、2年間は「ふるさとセンター」内の各施設のアルバイトとして働いているのだと思いますが、りんご漬けという感じですから、成功しますよね。</p> <p>そして、課題は、贈答や観光だけで成立している本市のりんご栽培です。つまり、ブランディングになっていません。共同選果を本気で考える時期に来ているのではないのでしょうか。本当の意味での切磋琢磨することです。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。